

28年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年 10月1日～ 28年10月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
入荷動向	スギ	5.0	22.5	20.0
	ヒノキ	△ 14.3	0.0	7.1
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 50.0	△ 50.0
消費動向	スギ	15.0	15.0	5.0
	ヒノキ	14.3	7.1	0.0
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 27.8	5.6	16.7
	ヒノキ	△ 28.6	△ 28.6	△ 7.1
	カラマツ	△ 50.0	△ 100.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギ製材原木の入荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキは10月の減少が11月は横ばい、12月はやや増加。カラマツは10月、11月の減少が、12月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して減少。

・スギ製材原木の消費は3ヵ月連続して増加。ヒノキ及びカラマツは10月、11月の増加が、12月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ製材原木の在庫は10月の減少が、11月、12月は増加。ヒノキ、カラマツ及びトドマツ原木の在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	28/10月	11月	12月
スギ	12.5	7.5	△ 2.5
ヒノキ	7.1	21.4	28.6
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材原木の価格は10月、11月のやや強含みが、12月はやや弱含み。ヒノキは強含みで推移。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

'(原木荷動き)

・台風による林道被害で通行不可が多く、特に国有林に多い。又、年初の低気圧による風倒木処理や間伐施業の遅れにより、今期も冬期の集荷が期待できない。パレット(国内向け)の出荷は順調、ラミナー及び間柱等の建築向けも安定的に受注(北海道)。

・トドマツのシステム契約の原木入荷順調、台風の影響はまだなし。フル生産(原木5,000m³/月)(北海道)。

・天候回復で入荷増。ヒノキは原木高で生産減(関東)。

・地元原木市場の出材が特別市のため増加、ヒノキ丸太は大幅増。製品の動きが良くなったためスギ、ヒノキ丸太の消費はやや増加、スギ在庫やや減少(中国)。

・12月以降に向けて仕入れを少しずつ増やして行く。生産に合わせての消費。今年は減るとよく耳にするため仕入れを増やす(関西)。

・ヒノキの入荷を10月は若干減らす見込み、消費は10月～12月はほぼ横ばい、在庫は12月にかけてやや増やす(中国)。

・天気悪く入荷は少な目だった。消費は特に変化なし(中国)。

・天候次第だが、記念市等の外的要因もあり、スギ出材はやや増加が見込めるのでは(九州)。

(原木価格)

・トドマツ変わりなし(北海道)。

・ヒノキは入荷不足で価格上昇(関東)。

・ヒノキ丸太3m、10.5cm角が突飛高であったが、解消されつつある(中国)。

・ヒノキの引合いが増えている。翌月から上昇の可能性あり(関西)。

・ヒノキは10月前半やや上昇、後半やや下落。11月は横ばいもしくはやや下落(中国)。

・ヒノキの値上がり傾向が続くそう(中国)。

・径級サイズにもよるが、スギ原木単価は底を抜けた状況、後は製品売価とのバランスの見極め(九州)。

28年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
生産動向	スギ	10.0	15.0	15.0
	ヒノキ	7.1	7.1	0.0
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	△ 25.0
出荷動向	スギ	25.0	10.0	10.0
	ヒノキ	28.6	7.1	0.0
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 30.0	△ 30.0	△ 10.0
	ヒノキ	△ 28.6	△ 28.6	△ 14.3
	カラマツ	50.0	50.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産は3ヵ月連続して増加。ヒノキ及びカラマツは10月、11月の増加が、12月は横ばい。トドマツは10月、11月の横ばいが、12月は減少。

・スギ製材品の出荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキ及びカラマツは10月、11月の増加が、12月は横ばい。トドマツは10月の増加が、11月、12月は横ばい。

・スギ及びヒノキ製材品の在庫は3ヵ月連続して減少。カラマツは10月、11月の増加が、12月は横ばい。トドマツは10月の減少が、11月、12月は横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
スギ	柱角 KD10.5×3	20.0	15.0	0.0
	柱角 KD12×3	11.1	11.1	0.0
	通し柱 12×6	10.0	20.0	0.0
	桁角	0.0	6.3	0.0
	母屋角	6.3	6.3	0.0
	タルキ	0.0	6.3	0.0
	間柱	16.7	12.5	0.0
	ヌキ	0.0	7.1	0.0
	平割	0.0	6.3	0.0
	ラミナ	10.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	21.4	14.3	7.1
	柱角 KD12×3	14.3	7.1	0.0
	土台角 10.5×4	7.1	7.1	0.0
	土台角 12×4	8.3	0.0	0.0
	通し柱 12×6	12.5	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角の出荷価格は10月、11月の強含みが、12月は横ばい。

・ヒノキ柱角はやや強含みで推移。土台角は10月、11月のやや強含みが、12月は横ばい。ラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・トドマツのフル生産。荷動きは多少改善傾向。生産分を販売(北海道)。
- ・ヒノキは原木入荷不足で生産減。スギは出荷好調(関東)。
- ・スギ、売れ行き余り良くない(関東)。
- ・丸太が増えた分生産を増やした。出荷も順調。在庫は減った(中国)。
- ・今月までの出荷は多い印象、11月～年末は平年並。在庫調整中(関西)。
- ・ヒノキ生産は10月～12月はほぼ横ばい。出荷は10月ピークか、11月はほぼ横ばい、12月は減る見込み。在庫は10月～12月は横ばい(中国)。
- ・生産に特に変化なし。売れるものは売れるが、売れないものは売れない。ヒノキ120×120cm在庫少ない(中国)。
- ・メーカーにもよるが、各種プレカット工場や製品市場も秋需に向け動きが活発化してきている。商社等流通業者も発注、荷動き共に多くなってきており、後はメーカーがどれだけ対応できるか次第(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツ変わりなし(北海道)。
- ・スギは販売横ばい、価格上昇にはならない。ヒノキは総じて横ばい状態が続く(関東)。
- ・スギ単価を上げたいが、なかなか難しい。ヒノキも同様(中国)。
- ・スギは、柱角(KD)品不足のため価格への反応も感じるが、ものがないため動向が見えない、但し早々に終わる気もする。ヒノキは物が少ないと感じる。仕事(注文)は多い(関西)。
- ・ヒノキ3m 10.5cm角、4m 10.5cm角は10月～11月やや上昇見込み、12月は横ばい。その他ヒノキはほぼ横ばい(中国)。
- ・スギ単価は横ばい。一時的にヒノキ4m、120×120cmが不足しており単価が上昇した(中国)。
- ・スギ間柱に関しては慢性的に足りておらず、これからしばらくは続くのではないか(九州)。
- ・スギ柱角のやや上昇は外材WWの関係か、需要の関係か(九州)。

28年10月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	△ 50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは3ヵ月連続して横ばい。ラジアータ丸太は10月の横ばいが、11月、12月は増加。

・米マツ丸太の消費は3ヵ月連続して横ばい。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して増加。

・米マツ丸太の在庫は3ヵ月連続して横ばい。ラジアータ丸太は10月の減少が、11月、12月は横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/10月	11月	12月
米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は10月の強含みが、11月、12月は横ばい。

・ラジアータ丸太は10月の横ばいが、11月、12月は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ラジアータ丸太の注文量が9月後半より増加、12月中旬まで続くと思う。

(原木価格動向)

- ・ラジアータ丸太のFOB価格が上昇。

28年10月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
生産動向	米マツ製材品	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	50.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	△ 100.0	△ 50.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の仕入れは3ヵ月連続して横ばい。ラジアータ製材品は10月の横ばいが、11月、12月は増加。

・米マツ製材品の出荷は10月の増加が、11月は減少、12月は横ばい。ラジアータ製材品は10月の横ばいが、11月、12月は増加。

・米マツ製材品の在庫は3ヵ月連続して減少。ラジアータ製材品は10月の横ばいが、11月、12月は減少。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		△ 50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ平角及び正角の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。米マツ小割は10月の弱含みが、11月、12月は横ばい。

・NZ梱包材(割板・割角)の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

(製材品出荷価格動向)

・ラジアータ梱包材、土木用材の価格は同じと判断。